



「全国青年部長・青年局長合同研修会」参加



岩手県連青年局メンバーと小泉顧問

去る6月8日、全国青年部長・青年局長合同研修会が開催され、岩手県連からは、青年局長の佐々木宣和県議員、青年局常任幹事の岩淵典仁一関市議会議員、鈴木健太学生部長、近藤颯前学生部長の4名が参加しました。党執行部の岸田文雄政務調査会長、山口泰明組織運動本部長の、青年局に対する期待を強くにじませた挨拶から始まった本研修会は、ヤフーの安宅和人CSOによる「AI時代の人材育成」についての講演等が行われました。

第44代青年局長の小泉進次郎顧問を迎えたパネルディスカッションで小泉顧問は、歴代中央常任委員会議長と共に「青年局の活動を通じて得た地方とのつながりは大きな財産。」と青年局長時代を振り返るとともに、「積極的に意見を出す青年局であり続けて欲しい。」と今後を担うメンバーに向けエール。鈴木馨祐青年局長は、台湾・ベトナムとの関係構築の強化などに言及し、活動の方向性について熱く語りました。他にも、元青年局長代理の熊谷大宮城県利府町長を迎え、「国政と地方の立場から見た日本の課題」についてディスカッションが行われました。いづれもユーモアを交えたやり取りに、会場から時折笑いが起きるなど、終始和やかな雰囲気で開催された研修会となりました。県連からの参加メンバーも大いに刺激を受け、国・県・市町村との連携の重要性を強く感じたところでした。



歴代中央常任委員会議長らのパネルディスカッション

県選出国会議員より「あいさつ」

③



ご挨拶

衆議院議員 藤原 崇

岩手県の皆様のご支援のおかげで、衆議院議員としての活動も6年目に入りました。我々の岩手県は、東日本大震災の被災地を抱える上、多くの地域が人口減少の問題を抱えています。自民党岩手県連には、その地域の実情を踏まえながら国と連携を取り、様々な課題に対応をしていくことが求められています。

特に、東日本大震災からの復興は8年目を迎えるようになっています。復興自体は発災から10年が経過しても続いています。そのため、今後は復興の進め方も大きく変わっていくことが予想されます。同時に、今まで投入されていた復興予算も、従来のような規模での投入が困難になって来ることが予想されます。そしてその影響は、単に被災地自身だけではなく、岩手県全体の活気にも及ぶことが想定されます。だからこそ今、被災地選出の国会議員が、しっかりと国にその実情を伝え、復興期間後の復興の姿を岩手県の皆様に示すことが求められています。

また、岩手県の内陸に目を向ければ、誘致の正念場を迎えているILCや、国道4号の全線4車線化の実現や、河川等のインフラの整備など、様々な課題が山積しています。国会議員は、地元のことではなく、あくまで国政全般のことに取り組むべきだという考え方もあります。おそらくはそれも事実でしょうが、やはり岩手県選出の議員である以上、地元岩手の振興を図ることは欠かすことのできない仕事です。地域の課題を解決していくことは、国政の場での問題解決にも繋がるものだと信じています。今後とも、皆様方からのご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

民法の一部改正についての法律案に賛成討論する藤原議員(5/29)

